

コルテス 伊藤の我が音楽人生

第17回 音楽がもたらした奇跡～AGAIN

こんにちは、コルテス伊藤です。天変地異が非常に多い年ですが皆様お変わりございませんか？

何度も言っていることですが、時間の経過が異様に速い。もう一年が終わろうとしております！

今回は、再び音楽がもたらす奇跡のお話をさせて頂きたいと思えます。

とある6月のある日、夕方6時過ぎに歯の痛みを訴えて一人の女性が新患で来院しました。その方は、右上顎4番の歯髄炎でかなり痛そうでした。とても綺麗な女性で、一通りの治療を済ませ一日目は終わりました。麻酔をしてから、私のスタッフに“7時までには終わりますか？”とたずねていたもので、大丈夫とアイコンタクトでスタッフに知らせました。治療は6時45分に終了し、少しだけお話をしたのですが、子どものダンスでひたちなか市まで週に一度来ているとのこと。レッスン終了に間に合わせたいということで時間を気にしていたようです。その方は銚田の住所でした。

私は、実家がこちらで嫁ぎ先が銚田市なのだと思っていたのですが。後々、このことが重要なポイントを示すとはこの時は思いもよらなかった。

治療は順調に進みまして医院を気に入っていただいたのか、患歯以外の治療も希望されたので、わかりましたと（結構きれいに治療されていたので通院回数は少なかったです）。

最後の治療が済み、“今日で終わりですね、お疲れ様でした。”と言った時にその女性は、“先生ちょっとよろしいでしょうか？”と、おもむろに口を開いたのです。“なんですか？”と私が訊ねたところ、“実は私の父はピアノの調律師なんです。”“えっ、そうなんですか？”突然のことでしたが、

“私も少し音楽の仕事をしているんですよ”

と言葉を返しました。しかし、いきなりなんて心の中では思いました。

彼女が言葉を続けます。“待合室にコンサートのポスターがあったものですから”“そうですか、よろしければ一度いらして下さい”



と私は言い、“じゃあお父さんにもピアノの調律をお願いしてみるかな”と。

彼女が言葉を続けます。“実は父は亡くなったんです”えっ！もしかしてと私は心の中で叫びました。“実家はどちらですか？”“大洗です”“もししたらお父さんはTさん？”“そうです”、と彼女が。それからは涙が溢れて止まりませんでした。“色々父がお世話になりました”

Tさんはコルテス開業以来ずっとずっと調律をお願いしてきた方です。彼の調律のCDも6枚ほど発売しております。

私は彼女にたずねました。“じゃあ生前お父さんに聞いていたんですか？”“いえ、今日初めて知りました。”“こんなことがあるのでしょうか？”

いるでしょうね。

人の縁は時折信じられないことを起こすのです。人生、長く生きてきて会わなければよかったと思う人の方が多分皆さん多いかもしれませんが（笑）。

しかしやはり一人では生きていけないのも事実。色々な人と出会って、この仕事に入ってから歯科の仕事も、コルテスの仕事も楽しいです。本当に良い人とは長くお付き合いしたのですが、やはり、良い人ぶって本性が見えてしまった時の寂しさは悲しいくらい切ないですね。

今は、FB、TWITTER、SNSと色々な媒体で自分を表現したり、自分の思いを伝えたりできるのですが、私の青春時代にはLINEもなければメールもないわけですから、徹夜に近い状態で書いた手紙も朝起きたら恥ずかしさのあまり彼女に渡せず、挙句の果てに姉や母に見られて大恥をかいた青春時代、皆さんにも覚えはございませんか？

私の父親は女性からの電話は取り次いでくれなかった（笑）。

携帯電話やPCなど文明の利器が当たり前ではある時代ですが、何かを見失っているのも事実ですね。

今回のTさんの娘さんとの出会いは本当に奇跡でした。Tさんも私の患者でもありましたが、最後には大きな病院を紹介しました。口腔内の状態は見たことがないほど酷い状態でした。歯肉が腫れているから取ってくれという電話がきてから1ヶ月でした。

どうぞ、安らかにお休み下さい。私も一日一日、大事に生きていこうと思います。

先生方もご自愛下さい。
HbA1c 6.4 現在
（ひたちなか市・伊藤歯科医院
伊藤 輝彦）

不思議を超えております。彼女は突然歯の激痛に見舞われ、とにかく歯科医院を探して車に乗って走り回ったようです。そして、お父さんの魂に導かれるように、予約の電話もなく私の病院の玄関の扉を開けたという、本当に考えられない出来事でした。そしてTさんは、去年の暮れに全身転移の癌に侵されながら3時間のライブを成し遂げたMさんとは旧知の間で（バンドも組んでいてコルテスでもライブを何回もしていただきました）Mさんとあちらで良いバンドをまた作って遊んで